

主よ、人の望みの喜びよ

作曲家 J. S. バッハ (Johann Sebastian Bach, 1685 - 1750)。ドイツ、アイゼナハ生まれ。中部ドイツのテューリンゲン地方を中心に、200年間にわたり50人以上の優れた音楽家を輩出したバッハ家最大の音楽家。ドイツ・バロック音楽の頂点に立つ作曲家として、しばしば「大バッハ」の名で呼ばれる。当代における最も優れたオルガニストでもあり、特に即興演奏の大家として知られた。作品は教会音楽をはじめ、オペラ以外のあらゆる分野に及んでいる。

編曲者 森田一浩 (→本書p.73)

楽曲解説

1723年、バッハのいわゆるライプツィヒ時代の作品で、聖母マリア訪問の祝日(7月2日)のためのカンタータ「心と口と行いと生活で」の最終楽章が原曲。3連符の装飾的な動きと、ショプ(Johann Schop, 1590 - 1667)が1642年に書いた「わが心よ、朗らかになれ」をもとにしたコラル(編曲では1番カッコ内、2小節目からS.2によって演奏される)が好対照をなす、大変に印象的な作品。約200曲が現存するバッハの教会カンタータの中で、最も広く知られる名作である。

「主よ、人の望みの喜びよ」というタイトルはコラルの歌詞「イエスはわが変わりなき喜び」の英訳「Jesu, Joy of Man's Desiring」からとられたもので、イギリスの女流ピアニスト、ヘス(Myra Hess, 1890 - 1965)がピアノ用に編曲した際にこのタイトルを使い、広く知られるようになった。

取り扱い上の要点

- S.1パートは3連符が連続するため、ブレスが難しい。フレーズの流れを中断しないような、素早いブレスが望まれる。また、ブレス直前の音が極端に短くならないように注意したい。
- 他のパートは、S.1のブレス位置や息づかいをよくつかみ、リズムがずれないように合わせること。

(森田一浩)

伴奏譜…別冊p.102

島人ぬ宝

作詞・作曲家 BEGIN。沖縄県石垣市出身の3人(比嘉榮昇^{ひがえいしょう}、島袋優^{しまぶくろまさる}、上地等^{うえちひとし})が1988年に結成したアコースティック・バンド。89年に出演したオーディション番組「平成名物TV 三宅裕司のいかすバンド天国」で5週連続勝ち抜き、これを機に翌90年にプロ・デビュー。代表作は他に「涙そうそう」などがある。メンバーのそれぞれがさまざまな歌手に多くの楽曲を提供している。

構成・編曲者 森田一浩 (→本書p.73)

楽曲解説

2001年10月にNHK沖縄の主催で行われたコンサート「新しい沖縄のうた」のためにBEGINが書き下ろした作品。タイトルは「沖縄の人の宝」の意。独特の音階や「三線」の響きが象徴する沖縄の伝統音楽と、カントリー・ロック調のおおらかなバンド・サウンドがミックスされ、歌詞には自然破壊に対する問題提起が控えめに盛り込まれている。02年3月から1年にわたり「沖縄本土復帰30周年イメージソング」としてNHK沖縄でオンエアされるなど、いわゆるヒット・ソングとはやや異なる次元で広く親しまれている。

取り扱い上の要点

- 三線は、最低音の弦(男絃^{うーちる})をC音とする本調子に調弦する。



- 郷愁をそそる演出には三線の音色がぜひともほしいところだが、三味線の音色を割り当てたキーボードで代用してもよい。なお、オリジナルの前奏、間奏、後奏部分では、次のように装飾音符が入っている。



- 打楽器はシェーカーをカバサ、スルドをミュートした大太鼓などで演奏してもよい。(森田一浩)